

## 2015年度 ATJ体験記

氏名： A. N.

卒業年月： 2015年3月 卒業学部・学科： 学芸学部国際教養学科

派遣先学校名： Mount Clear College

ATJの期間： 2015年4月14日 ~ 2016年3月25日（更新： 無）

### I. ATJレポート

① ATJ参加決定から出発までの準備期間（英語、日本語・日本文化に関わる学習）

英語に関しては大学在籍中に約1年間留学していたので特に準備はしませんでした。日本語に関しては日本語学科の講義をいくつか受講していただけで専門的な知識はありませんでした。このプログラムに参加すると決めてから4回生の時に個人的に日本語教育能力検定試験の対策講座（大学外で個人的に）に3か月ほど参加しました。“第二言語としての日本語”に関してどのように教えるかなどの知識が全くなかった私には、ここで得た知識はオーストラリアでとても役に立ったと思います。日本文化については特に用意はしませんでした。

② ATJ参加決定から出発までの準備期間（渡航手続き関係）

個人的な理由で2月までにビザの取得を終わらせたかったのと、業者に依頼せず個人でビザを申請することにしたので、準備は12月から始めました。必要書類を集めるのに数週間、そしてアプリケーションなどと一緒に12月末に送りました。クリスマス前後から1月末までオーストラリアはホリデーシーズンなので返事をもらうまで少し時間がかかりましたが、1月末に健康診断の案内がきて、健康診断受診、そして2月の中旬にはビザがおりました。

③ ATJとして経験した具体的業務

基本的には先生についていき授業のサポートをします。具体的には、板書の手伝いや会話のデモンストレーション、私自身が日本語の言語・漢字の成り立ちや日本で実際どのように使われているか、また文化について説明する機会もたくさんありました。授業内容に躓いている子がいればその子についてもう一度説明してあげたり、一緒にワークブックに取り組んだりしました。会話のテストがあるときは、試験官の役目などもまかされました。空いたコマには授業で使えるようなプリントを作ったり、先生に頼まれた宿題・テストの採点をしたりしました。授業内容に沿った小テストを作ったりもします。

そして日本語のイベント（スピーチコンテストなど）に出る子たちに直接アドバイスを

し、その他にも個人的な理由で日本語の添削やアドバイスなどが必要な時は手伝っていました。11年生、12年生に関しては空き時間に来てもらい会話の練習をしたりもしました。

#### ④ A T J 以外の活動

私が派遣された学校は、校舎と別に言語の授業のみが行われる Language Center という建物があり、そこでは頻繁に国際文化についてのイベントが開かれていました。手が空いているときはその準備などの手伝いをしていました。また学校の遠足やキャンプなどにも参加しました。普段かかわりのない先生でも、いろいろと交流ができるのでとても楽しかったです。

そして、派遣されている学校以外からも依頼をされて小学校などに折り紙教室、料理教室のお手伝いにも行きました。このような機会では、A T J 以外のプログラムで来ているアシスタントの方や、他の学校の日本語の先生と一緒にいつもとは違った形でお手伝いすることもありました。

学校の生徒ではないですが、毎週末に家庭教師をしていました。先生に頼ることなく自分ですべて計画をして教えていかなければならなかったので、責任感はありましたがとてもいい経験になったと思います。

#### ⑤ ホームステイ

私は学校から指定された場所はホームステイではなく、シェアハウス（3人）という形でした。なので、基本的に自分で買い物に行き自分でごはんを作っていました。（一応学校からホストに支払いが行っていたので、食費の分はお金をホストから貰っていました。）年齢も近く家族ではなく友だちという表現が近く、特に厳しいルールや門限などはありませんでした。

#### ⑥ 健康面、治安面で注意すべきこと

健康面では少し風邪を引いたくらいで、病院にかかるような病気になることはありませんでした。しかし、朝と夜で気温差が激しかったり、1日おきに気温が10度上がったり、下がったりすることが良くあるので、基本的に家を出る前は天気予報を確認していました。

私がいたバララットというところは都会すぎず田舎過ぎずという街だったのですが、夜10時以降は人通りが少なくなります。数人の場合や車移動だと問題ないですが、1人で歩く時は気を付けていました。

#### ⑦ 長期休暇の過ごし方

長期休暇（タームの間の2週間）の間は基本的に旅行をしていました。A T J 同期とエアズロックに行ったり、ケアンズ・ポートダグラスなどに行ったりしました。2週間ま

るまる旅行をしていたり1泊2日のみだったり日にちはバラバラですが、基本的に充実していました。ビクトリア州の中にもたくさん自然を満喫でき見て回る場所があるのでこちらもおすすめです。基本的に支給された雑費で旅行しました。

## Ⅱ. ATJの感想

### ① 最も楽しかったこと、最も思い出に残っていること

一番思い出に残っていることは、私が学校を離れる前にたくさんの生徒が別れを惜しんでくれたことです。最初の1か月ほどぎこちなかった生徒との関係も慣れてくるにつれて、だんだん距離が縮まっていきとてもいい関係が築けたと思います。そして、いい関係が築ければ生徒もたくさん質問や話をしてきます。そのようなことが日本語のクラスが楽しいという生徒のモチベーションにつながり、結果的に生徒の日本語の実力が伸びることにつながるのだなと思いました。1年間という短い期間でしたが、たくさんの成長を見ることができてとても充実していました。

### ② 辛かったこと、最も苦勞したこと

一番苦勞したことは、低学年の生徒に教えることです。私の学校では7年生、8年生は必ず言語科目を選択しなければなりません(学校によっては9年生まで必修)。もちろん、意欲的に取り組む子もいますが、中には言語を勉強する意味が分からないと話すら聞こうとしない生徒もいました。このように日本語の授業は英語や数学など他の主要科目に比べて優先順位が低いと考える生徒もいるためそのような子たちにいかに話を聞いてもらうか、理解してもらうかというところでは苦勞しました。

### ③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

オーストラリアと日本での違いで驚いたことはたくさんあります。まずは宿題をきちんとするという習慣があまりありません。先生もきちんとチェックをしていくのですが、それでも日本と比べるとしない子が多い気がします。

次にオーストラリアの子供たちはシャーペンや鉛筆をあまり使いません。ノートをとるときならわかるのですが、テストなどもたくさんの生徒がボールペンで記入します。きちんと修正液で消す子もいれば、そのままぐちゃぐちゃとして、隅っこに答えをかく子もいます。そして筆箱がとっても大きいです。ノートとほぼ同じ大きさです。

もちろんいい面で驚いたこともあります。授業中の生徒の発言数の多さです。先生がまだ話している途中でもどんどん手が上がっていきます。きちんと興味を持って話を聞いているのだなと感心します。他にも、学年が上がっていくにつれて質問の内容がより細かいグラマーポイントや表現に変わっていき、こんなに意欲的なのかと生徒の頑張りにはとても驚かされました。

### Ⅲ. A T J参加希望者へのアドバイス

#### ① 日本から持って行って、特に役に立ったもの（パソコン持参の有無も含めて）

学校のパソコンをつかうこともできましたが、日本語入力ができなかったり、文字化けがおこったりするので、自分のパソコンを持参するのがいいと思います。パソコンにキーボードを追加しようとしても学校のパソコンなのでロックがかかっていました。

日用品に関しては基本的に日本で買えるものはだいたい買えます。メルボルンにはダイソー(100円ショップ)もあるし、スーパーで日本食の調味料を買うことも可能です。

個人的にこだわりがあるものや、服用している薬などは持参したほうが良いと思います。が特に日本から持っていて良かったなと思うものはありません。

しかし、持って行っておけば良かったなと思うのがムヒです。オーストラリアにも蚊に刺された時のムヒは売っているのですが、クリーム状だったり、ジェル状で乾いた後に白く残ったりします。スーッと爽快感があるものはなかったと思います。

#### ② これからA T Jに参加しようと思っている後輩へのアドバイス

日本語教育に興味がある方、海外に住むこと・海外で働くことに興味がある方は体験しておくべきだと思います。まずこのプログラムのいいところは、現地の教員免許・資格などなしに海外の学校で働くことができるという点です。これは言語アシスタントならではの特権だと思います。海外に留学して自らが学ぶこと、ワーキングホリデーで働くことはできても、実際先生たちと協力して1年間勉強を教えるという経験はなかなかできないと思います。ただのアシスタントという形ですが、学校の行事にいかに関わっていくかによって日本語アシスタント以上の経験もできます。そして日本の学校とオーストラリアの学校の違いはもちろん、オーストラリアの文化を理解していくなかで日本文化を理解することもできると思います。

次にホームステイ代が支払われて、雑費がもらえる点です。他のプログラムで来ている子たちの中にはすべて実費、ボランティア同然で来ている子もいました。

オーストラリアでの1年間はとても充実していたし私自身はこのプログラムに参加することができて良かったなと思います。

### Ⅳ. 進路

#### ① 現時点での進路（A T Jの継続、就職先など）

夏ごろから就職活動を始める予定です。まだ、どのような職種につくかは決めていません。

## 2015年度 ATJ体験記

氏名： K. M.

卒業年月： 2015年3月 卒業学部・学科： 生活科学部人間生活学科

派遣先学校名： Brauer College

ATJの期間： 2015年5月11日～2016年3月24日（更新：無）

### I. ATJレポート

① ATJ参加決定から出発までの準備期間（英語、日本語・日本文化に関わる学習）

英語学習は自力で気ままに行っていました。NHKの英語番組（基礎英語、ニュースで英会話、トラッドジャパン等）、英語で日記をつける、字幕で映画鑑賞など。

日本文化に関わる学習は、現地でかなりコアな質問もされたので、（相撲、だるま、季節の行事…）前準備はいくらしても損はないと思います。大半の生徒にウケがいいのは現代的なpopカルチャーや食べ物なので、データを集めておくことをオススメします。

② ATJ参加決定から出発までの準備期間（渡航手続き関係）

渡航手続きは自力でしました。卒論などで最優先にできておらず、結果的に1か月渡航が遅れることになってしまいました。健康診断は限られた病院でしかできず、東京の方が診断結果が早いと聞いて受けに行きました。予約もすぐにとれるわけではないので気をつけてください。大使館に連絡もしましたが、ATJコーディネーターの方に事情を説明して、直接大使館に問い合わせもらうのが効果的でした。

③ ATJとして経験した具体的業務

授業中は何かするよりも机間巡視の方が多かったです。基本的な業務はメインの先生の補助ですが、簡単な授業をさせてもらうことも何度かありました。季節の行事についてパワーポイントや動画配信サービスを使って説明したうえで、実際に生徒に体験させたり、お弁当を作ったりしたこともありました。

④ ATJ以外の活動

チューター、学校の行事参加（ミュージカル鑑賞、キャンプ、BBQなど）、授業がない日は近隣の小学校のお手伝いにも行かせてもらいました。とても勉強になるので、おすすめです！

## ⑤ ホームステイ

二つの家族にお世話になりました。学校側は引っ越しに全く関与せず、自分でホストを見つけて交渉させてもらいました。1つ目のホストに6か月、2つ目は1か月、残りは友人が経営するシェアハウスに住みました。どれも現地で友達になった人が誘ってくれて、他に学校の先生もいつでもおいでと言ってくれて日本にはないウェルカムな姿勢に驚きました。

## ⑥ 健康面、治安面で注意すべきこと

健康面は、冬が予想外に寒すぎて、日本でも滅多にひかないのにひどい風邪をひいてしまいました。治安は田舎なのでかなり良かったです。でも日本と違い、合法ドラッグをしている人も時々いたりするのでどの国にも言えますが開放的になりすぎないように気をつけて下さい。

## ⑦ 長期休暇の過ごし方

旅行(メルボルン、スクールキャンプでアデレードからウルルやケアンズを回るツアー、家族とシドニーで年越し、タスマニア、ゴールドコーストなどとたくさん行きました!)、地元のフェスティバル、映画鑑賞、友人とホームパーティー、ホストとお出かけをしました。計画的な正確ではないのでどれも直前に決めたものですが、休みは決まっているので早めにプランをたてて費用を節約することをオススメします。

## II. ATJの感想

### ① 最も楽しかったこと、最も思い出に残っていること

全ての経験が楽しかったです。授業では妖怪ウォッチを踊ることもありました。お菓子入りのおにぎりを作りや、カラオケなどアクティビティもたくさんしました。プライベートは多国籍の友達と料理を作りあったり、ビーチでアイスを食べたり、誕生日やお別れのパーティをしてもらったり。一生物の経験です。

### ② 辛かったこと、最も苦勞したこと

英語が堪能ではなかったので、特に低学年はやんちゃな子も多く、なめられることもしばしばありました。教室を片付けてから帰るように説明しても相手にされず、チャイムと同時に帰ってしまい、1人散らかった教室に取り残された時は悔しくて悔しくて泣いてしまったかったです。でも指導者の力量がわかりやすく現れていることなので、次はこう言ってみよう!と気づかせてもらえたことに感謝しています。

苦勞したことは、日本語の先生が家族の用事や急用でお休みされることが何度かあり、拙い英語力で授業を数日持たなければならなかったことです。ただ、授業を任せてもらえ

ることは先生方の信頼を感じたし、生徒と向き合える機会でもあったので、とても有難いと思っています。

### ③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

文化・習慣の違いなどで驚いたことほぼ全生徒が自分のタブレットやノートパソコン持参し、授業で使用する。先生によっては音楽を聴きながら作業をしていました。提出物もデータでということもありました。また、基本的に学校のスケジュール(授業変更、スポーツデー、ミーティング等)が直前までわからないこと。

## Ⅲ. A T J参加希望者へのアドバイス

### ① 日本から持って行って、特に役に立ったもの(パソコン持参の有無も含めて)

洗濯ネットです。オーストラリアは物価が高く、日本のように痒いところに手が届く買い物はなかなかできません。特に田舎の配属校の場合。

日本食はかなりいろいろ持って行ってもいいと思います。地方のスーパーでも日本食は大体買えますが、高いです。(※持ち込み検査は注意)

### ② これからA T Jに参加しようと思っている後輩へのアドバイス

とにかくオーストラリアは住みやすくいい国なので、自信を持ってオススメできます。多文化で、世界中の国の人と知り合うことができ、野生の動物や大自然にも触れ合えます。海外で長期生活をするのは不安も大きいですが、間違いなく人生は変わりますよ！

## Ⅳ. 進路

### ① 現時点での進路(A T Jの継続、就職先など)

現在就活中です。引き続き残ることも最後の最後まで悩みましたが、新しいことに挑戦したかったのと、社会人経験も積みたかった。仕事は英語に触れる仕事が望ましいですが、幅広く探しています。

### ② 将来の夢

海外が大好きなので、世界中を旅行したいです。オーストラリアには定期的に帰りたいと思っています。

## 2015年度 ATJ体験記

氏名： Y. S.

卒業年月： 2015年3月 卒業学部・学科： 表象文化学部日本語日本文学科

派遣先学校名： Warrnambool Primary School

ATJの期間： 2015年4月14日 ~ 2016年3月24日（更新： 無）

### I. ATJレポート

#### ③ ATJとして経験した具体的業務

私の小学校は、12月までは朝9時から15時まで90分授業が3つ、2月の新学期からは60分授業が6つになったので、全ての授業に出て補助を行っていました。

補助内容としては発音指導・ひらがなの書き順のお手本・課題（プリント）をさせている時に教室を巡回して質問を受けたりしていました。

#### ④ ATJ以外の活動

オーストラリア在住の、ハーフのお子さんがおられる日本人の女性の方と知り合う機会があったので、3回ほどその方のお子さんに日本語を教えさせていただきました。

#### ⑤ ホームステイ

私は3つの家庭に行かせていただいたのですが、みなさんすごく良い方ばかりでとてもいい経験が出来ました。ただ、Wi-Fiがないお家も多いようで、その点では少し不便だなと感じるところがありました。私の最後のお家にはWi-Fiがなかったのですが、家で日本の携帯を使いたい時はプリペイド式のポケットWi-Fiを利用していました。

#### ⑥ 健康面、治安面で注意すべきこと

私は夜ほとんど出歩くことがなかったので治安面についてはあまり意識したことはありませんでした。しかし、プログラム期間中何度もきつめの風邪をひいてしまい、とても大変でした。小学校にいた私だけではなく、中学・高校にいた友人も頻繁に風邪を引いたので、学校は思っているよりもきれいじゃない事を心に留めておいた方がいいと思います。忙しかったりすると忘れがちになっていましたが、物を食べる前には必ず手を洗う、と言うのがやはり一番の風邪予防なのだと改めて思いました。

## II. ATJの感想

### ① 最も楽しかったこと、最も思い出に残っていること

教室内にいたことが一番多かったこともあり、授業をしている時が一番楽しかったです。あとは、廊下や校庭を歩いている時に生徒たちが声をかけてくれた事とてもうれしかったです。最も思い出に残っていることは、最終日に私の為に全校生徒が時間を取ってくれて開いてくれた朝礼で、6年生の男の子がしてくれた日本語スピーチです。授業でやった内容に加えて、小学生にはまだ難しいであろう内容を私の為に暗記してくれたことがとてもうれしかったです。

### ② 辛かったこと、最も苦勞したこと

特別大きな苦勞はなかったのですが、たまに内容が難しいと思ってやる気がなくなってしまい、授業にちゃんと参加してくれない生徒がいたりした時になんと声をかけたらいいのかわからなくて少し悩んだことがありました。

## III. ATJ参加希望者へのアドバイス

### ① 日本から持って行って、特に役に立ったもの（パソコン持参の有無も含めて）

TJFL（1か月のTAプログラム）からの経験で、教育に関係するものは先生が大体持っておられるだろうと思い、絵本などは全く持って行きませんでした。パソコンは持って行きました。使ってらっしゃったプリントが古かったりしてわかりにくかった時が多かったので、プリントの作り直しをしたりする時にパソコンがとても役に立ちました。